

## 平成 23 年 7 月新潟・福島豪雨

平成 23 年(2011 年)7 月 27 日～7 月 30 日

(これは速報であり、数値等は変わることがあります。)

### 概要

7 月 27 日から 30 日にかけて、新潟県と福島県会津を中心に大雨となった。特に、28 日から 30 日にかけては、前線が朝鮮半島から北陸地方を通過して関東の東に停滞し、前線に向かって非常に湿った空気が流れ込み、大気の状態が不安定となって、新潟県と福島県会津を中心に記録的な大雨となった。

この期間の雨量は、福島県南会津郡只見町只見(タダミ)で 711.5 ミリ、新潟県加茂市宮寄上(ミヤヨリカミ)で 626.5 ミリとなり、それぞれ 7 月の平年の月降水量の 2 倍以上となった。

1 時間降水量では、新潟県十日町市十日町(トオカマチ)で 29 日 20 時 51 分までに 121.0 ミリの猛烈な雨が降り観測史上 1 位を更新し、福島県南会津郡只見町只見(タダミ)で 29 日 19 時 00 分までに 69.5 ミリの非常に激しい雨が降り観測史上 1 位を更新するなど、新潟県から福島県会津を中心に非常に激しい雨が降った。

24 時間降水量では、福島県南会津郡只見町只見(タダミ)で 30 日 07 時 00 分までに 527.0 ミリ、新潟県加茂市宮寄上(ミヤヨリカミ)で 30 日 09 時 10 分までに 473.5 ミリとなり観測史上 1 位を更新したほか、新潟県の多くの地点で観測史上 1 位を更新した。

また、72 時間降水量では、福島県南会津郡只見町只見(タダミ)で 30 日 04 時 30 分までに 700.0 ミリ、新潟県加茂市宮寄上(ミヤヨリカミ)で 30 日 22 時 10 分までに 623.5 ミリとなり観測史上 1 位を更新したほか、新潟県と福島県会津の多くの地点で観測史上 1 位を更新した。

この大雨により、新潟県・福島県において死者 3 名、行方不明者 3 名となった。また、新潟県・福島県では各地で堤防の決壊や河川の氾濫による住家や農地の浸水が発生したほか、土砂災害による住家や道路の被害も多数発生した。その他、停電、断水が発生し、交通機関にも大きな影響が出た。(被害の状況は内閣府などによる(平成 23 年 8 月 1 日 10 時 30 分現在))。

平成 23 年 9 月 7 日  
気 象 庁

## 台風第 12 号による大雨

平成 23 年(2011 年)8 月 30 日～9 月 6 日

(これは速報であり、数値等は変わることがあります。)

### 概要

8 月 25 日 9 時にマリアナ諸島の西の海上で発生した台風第 12 号は、発達しながらゆっくりとした速さで北上し、28 日には強風半径が 500km を超えて大型の台風となり、30 日には中心気圧が 965hPa、最大風速が 35m/s の大型で強い台風となった。

台風は、その後もゆっくりとした速度で北上を続け、30 日に小笠原諸島付近で進路を一旦西に変えた後、9 月 2 日には暴風域を伴ったまま北上して四国地方に接近し、3 日 10 時前に高知県東部に上陸した。その後、台風はゆっくりと北上して四国地方、中国地方を縦断し、4 日未明に日本海に進み、5 日 15 時に日本海中部で温帯低気圧となった。

台風が大型で、さらに台風の動きが遅かったため、長時間にわたって台風周辺の非常に湿った空気が流れ込み、西日本から北日本にかけて、山沿いを中心に広い範囲で記録的な大雨となった。

8 月 30 日 17 時からの総降水量は、紀伊半島を中心に広い範囲で 1000mm を超え、奈良県上北山村上北山(がキヤマ)で総降水量は 1808.5mm となるなど、総降水量が年間降水量平年値の 6 割に達したところもあり、紀伊半島の一部の地域では解析雨量で 2000mm を超えるなど、記録的な大雨となった。なお、奈良県上北山村上北山では最大 72 時間降水量が 1652.5mm と、1976 年からの統計開始以来の国内の観測記録である 1322mm(宮崎県美郷町神門(ミカ))を上回ったのを始め、北海道から四国地方にかけての多くの地点で観測史上 1 位を更新した。

このため、土砂災害、浸水、河川のはん濫等により、和歌山県、奈良県、三重県などで死者 49 名、行方不明者 55 名となり、北海道から四国にかけての広い範囲で床上・床下浸水などの住家被害、田畑の冠水などの農林水産業への被害、鉄道の運休などの交通障害が発生した。(被害状況は、平成 23 年 9 月 7 日 15 時現在の消防庁の情報による)

平成 23 年 9 月 26 日  
気 象 庁

## 台風第 15 号による暴風・大雨

平成 23 年(2011 年)9 月 15 日～9 月 22 日

(これは速報であり、数値等は変わることがあります。)

### 概要 (26 日現在)

9 月 13 日 21 時に日本の南海上で発生した台風第 15 号は、北に進んだ後西に向きを変え、16 日にかけて大東島地方に向かって進んだ。台風は、南大東島の西海上を反時計回りに円を描くようにゆっくり動いた後、19 日 21 時には最大風速が 35m/s の強い台風となって奄美群島の南東海上を北東に進み、20 日 21 時には中心気圧が 940hPa、最大風速が 50m/s の非常に強い台風となった。台風は、速度を速めつつ四国の南海上から紀伊半島に接近した後、21 日 14 時頃に静岡県浜松市付近に上陸し、強い勢力を保ったまま東海地方から関東地方、そして東北地方を北東に進んだ。その後台風は、21 日夜遅くに福島県沖に進み、22 日朝に北海道の南東海上に進み、同日 15 時に千島近海で温帯低気圧となった。

台風が、南大東島の西海上にしばらく留まり、湿った空気が長時間にわたって本州に流れ込んだことと、上陸後も強い勢力を保ちながら北東に進んだことにより、西日本から北日本にかけての広い範囲で、暴風や記録的な大雨となった。

9 月 15 日 0 時から 9 月 22 日 24 時の総降水量は、宮崎県美郷町神門(みかた)で 1128.0mm とするなど、九州や四国の一部で 1000mm を超え、多くの地点で総降水量が 9 月の降水量平年値の 2 倍を超えた。風については、東京都江戸川区江戸川臨海(エドガワリンカイ)で最大風速が 30.5m/s となり、統計開始以来の観測史上 1 位を更新するなど、各地で暴風を観測した。

また、統計期間が 10 年以上の観測地点のうち、最大 72 時間降水量で 36 地点、最大風速で 20 地点が統計開始以来の観測史上 1 位を更新した。

宮城県、静岡県、愛知県などで死者 12 名、行方不明者 3 名となり、沖縄地方から北海道地方の広い範囲で住家損壊、土砂災害、浸水害等が発生した。農業・林業・水産業被害や停電被害、鉄道の運休、航空機・フェリーの欠航等による交通障害が発生した。(被害状況は、平成 23 年 9 月 24 日 13 時現在の内閣府の情報による)

平成 24 年 7 月 15 日  
気 象 庁

## 平成 24 年 7 月九州北部豪雨

平成 24(2012)年 7 月 11 日～7 月 14 日

(これは速報であり、数値等は変わることがあります。)

### 概要

7 月 11 日から 14 日にかけて、本州付近に停滞した梅雨前線に向かって南から非常に湿った空気が流れ込み、九州北部を中心に大雨となった。

熊本県阿蘇市阿蘇乙姫(アソオヒメ)では、7 月 11 日 0 時から 14 日 24 時までに観測された最大 1 時間降水量が 108.0 ミリ、最大 24 時間降水量が 507.5 ミリとなり、それぞれ観測史上 1 位の値を更新した。これらを含め、統計期間が 10 年以上の観測地点のうち、最大 1 時間降水量で計 7 地点、最大 24 時間降水量で計 8 地点が観測史上 1 位の値を更新した。

この大雨により、河川のはん濫や土石流が発生し、熊本県、大分県、福岡県で死者 21 名、行方不明者 8 名となったほか、九州北部を中心に住家損壊、土砂災害、浸水害等が発生した。また、停電被害、交通障害等が発生した。(被害状況は、平成 24 年 7 月 14 日 21 時 30 分現在の消防庁などの情報による)

平成 24 年 8 月 15 日  
気 象 庁

## 前線による大雨

平成 24(2012)年 8 月 13 日～8 月 14 日

(これは速報であり、数値等は変わることがあります。)

### 概要

13 日から 14 日にかけて、朝鮮半島から日本海中部へのびる前線がゆっくりと南下し、本州付近に達した。前線に向かって南から暖かく湿った空気が流れ込んだため、大気の状態が非常に不安定となり、近畿中部を中心に大雨となり、局地的に猛烈な雨が降った。

8 月 13 日 0 時から 14 日 24 時までに観測された最大 1 時間降水量が、大阪府枚方市枚方(ヒラカ)では 91.0 ミリ、京都府京田辺市京田辺(キョウタヘ)では 78.0 ミリとなり、それぞれ観測史上 1 位の値を更新した。これらを含め、統計期間が 10 年以上の観測地点のうち、最大 1 時間降水量で計 3 地点、最大 3 時間降水量で計 2 地点が観測史上 1 位の値を更新した。また、解析雨量によると、大阪府高槻市で 1 時間に約 110 ミリの猛烈な雨を解析し、京都府宇治市では 3 時間に約 190 ミリの雨を解析した。

この大雨により、河川の増水や住宅の浸水が発生し、大阪府で死者 1 名、京都府で行方不明者 2 名となったほか、がけ崩れ、交通障害などが発生した。(被害状況は、平成 24 年 8 月 14 日 16 時 00 分現在の国土交通省などの情報による)

平成24年9月21日  
気象庁

## 台風第16号および大気不安定による 大雨・暴風・高波・高潮

平成24(2012)年9月15日～9月19日

(これは速報であり、数値等は変わることがある。)

### 概要

9月11日9時にカロリン諸島近海で発生した台風第16号は、発達しながら北西へ進み、14日には中心気圧が900ヘクトパスカル、最大風速が55メートルの最大の勢力となって、フィリピンの東海上を北へ進んだ。台風は15日21時には中心気圧が910ヘクトパスカル、最大風速が50メートルの大型で非常に強い勢力となって沖縄の南海上をさらに北へ進み、16日7時半頃に大型で非常に強い勢力を保持したまま沖縄本島付近を通過した。その後台風は九州の西海上を北へ進み、朝鮮半島から日本海西部へ進んで進路を北東に変え、18日9時に沿海州で温帯低気圧に変わった。

台風により、沖縄地方から近畿地方の太平洋側にかけて大雨、暴風となり、沖縄地方から九州地方を中心に高波、高潮となった。また、台風から変わった温帯低気圧にむかって湿った空気が流れ込んだため、大気の状態が不安定となり、東海地方でも大雨となった。

9月15日0時から19日24時までに観測された日最大風速は、鹿児島県大島郡与論町与論島(ヨロジマ)で42.1メートルとなり観測史上1位の値を更新したのを含め、日最大風速は4地点で観測史上1位の値を更新した。また、台風の接近・通過に伴って、沖縄地方から近畿地方にかけての沿岸で、50センチメートルから1メートル程度の最大潮位偏差(実測の潮位と平常の潮位との差)が観測されたが、台風の接近・通過が年間で最も潮位が高い秋の大潮の満潮時間帯と重なったため、那覇市や長崎市など九州・沖縄地方を中心に過去に記録した最高潮位を上回る高い潮位を観測した。

この台風により、長崎県と沖縄県で計2名が死亡したほか、沖縄地方から東海地方にかけての広い範囲で住家損壊、土砂災害、浸水害、停電、航空機・フェリーの欠航等による交通障害が発生した。また、沖縄地方および九州地方から近畿地方にかけて、高潮による住宅の浸水や道路の冠水などの被害が発生した(被害状況は、平成24年9月21日現在における各气象台からの報告による)。

平成 25 年 8 月 2 日  
気 象 庁

## 梅雨前線および大気不安定による大雨

平成 25(2013)年 7 月 22 日～8 月 1 日

(これは速報であり、数値等は変わることがあります。)

### 概要

7 月 22 日から 8 月 1 日にかけて、日本海から東北地方付近にのびる梅雨前線と、本州に沿って西から流れ込む暖かく湿った空気や上空の寒気の影響で、広い範囲で大気の状態が不安定となり、九州から北海道にかけて局地的に非常に激しい雨が降った。

この期間内の総降水量は、北海道登別市カルルスで 531.0 ミリと 500 ミリを超えたほか、福島県、新潟県、石川県、福井県、岐阜県、滋賀県、島根県、山口県で 300 ミリを超えた。

24 時間降水量では、島根県鹿足郡津和野町津和野(ツリ)で 29 日 2 時 50 分までに観測史上 1 位となる 381.0 ミリとなったほか、山形県、石川県、福井県、鳥取県、山口県でも観測史上 1 位を更新した地点があった。

また、1 時間降水量では、山口県山口市山口(ヤマガチ)で 28 日 8 時 13 分までに 143.0 ミリ、同県萩市須佐(スサ)で 28 日 12 時 04 分までに 138.5 ミリ、島根県鹿足郡津和野町津和野(ツリ)で 28 日 4 時 44 分までに 91.5 ミリの猛烈な雨が降り、観測史上 1 位を更新したほか、西日本から北日本の広い範囲で局地的に非常に激しい雨が降った。

この大雨により、山口県萩市で 2 名、新潟県長岡市で 1 名の計 3 名が死亡したほか、山口県萩市および島根県津和野町で計 2 名が行方不明となった。また、中国地方、北陸地方、関東地方、東北地方の各地で計 3,200 棟以上が床上または床下浸水したほか、各地で土砂災害が発生した。その他、停電、断水が発生し、交通機関にも影響が出た。被害の状況は内閣府による(平成 25 年 8 月 1 日 20 時現在)。

平成 25 年 8 月 12 日  
気 象 庁

## 大気不安定による大雨

平成 25 (2013) 年 8 月 9 日～8 月 10 日

(これは速報であり、数値等は変わることがあります。)

### 概要

8 月 9 日、北日本では、日本海から湿った空気が流れ込み大気の状態が非常に不安定になり、秋田県・岩手県を中心に記録的な大雨となった。

8 月 9 日 0 時から 10 日 24 時までに観測された最大 1 時間降水量が、秋田県鹿角市鹿角(カヅ)では 108.5 ミリ、岩手県雫石町雫石(シズクイ)では 78.0 ミリとなった。これらを含め、統計期間が 10 年以上の観測地点のうち、最大 1 時間降水量で計 10 地点、最大 3 時間降水量で計 12 地点、最大 24 時間降水量で計 5 地点が観測史上 1 位の値を更新した。また、解析雨量によると、秋田県大館市で 1 時間に 120 ミリ以上の猛烈な雨を解析し、秋田県大館市と北秋田市では 3 時間に約 300 ミリの雨を解析した。

この大雨により、河川の増水や土砂災害が発生し、秋田県で死者 4 名、行方不明者 1 名、岩手県で死者 2 名となったほか、岩手県、秋田県を中心に住家被害や農地被害が生じた。その他、停電、断水が発生し、交通機関にも影響が出た。(被害状況は、平成 25 年 8 月 11 日 18 時 00 分現在の内閣府の情報による)



平成 25 年 9 月 18 日  
気 象 庁

## 台風第 18 号による大雨

平成 25 (2013) 年 9 月 15 日～9 月 16 日

(これは速報であり、数値等は変わることがあります。)

### 1. 概要

9 月 13 日 3 時に小笠原諸島近海で発生した台風第 18 号は、発達しながら日本の南海上を北上し、14 日 9 時に強風域の半径が 500km を超えて大型の台風となり、15 日 18 時には暴風域を伴った。

台風は、その後も北上を続け、潮岬の南海上を通過して、16 日 8 時前に暴風域を伴って愛知県豊橋市付近に上陸した。その後、台風は速度を速めながら東海地方、関東甲信及び東北地方を北東に進み、16 日 21 時に北海道の東で温帯低気圧となった。

台風の接近・通過に伴い、日本海から北日本にのびる前線の影響や、台風周辺から流れ込む湿った空気の影響、台風に伴う雨雲の影響で、四国から北海道の広い範囲で大雨となった。また、台風や台風から変わった温帯低気圧の影響で、九州から北海道の各地で暴風となった。このほか、和歌山県、三重県、栃木県、埼玉県、群馬県及び宮城県においては竜巻等の突風が発生した。

9 月 15 日から 16 日までの総雨量は、三重県宮川で 575.5 ミリ、奈良県上北山で 542.5 ミリとなるなど、近畿、東海地方を中心に 400 ミリを超えたほか、統計期間が 10 年以上の観測地点のうち、最大 1 時間降水量で 13 地点、最大 3 時間降水量で 25 地点、最大 24 時間降水量で 35 地点、最大 48 時間降水量で 25 地点が統計開始以来の観測史上 1 位を更新した。風については、東京都三宅坪田で 28.0m/s、愛知県セントレアで 26.3m/s、兵庫県神戸で 26.1m/s の最大風速を観測したほか、統計期間が 10 年以上の観測地点のうち 5 地点で最大風速の統計開始以来の観測史上 1 位を更新した。

各地の気象台は、台風に伴う大雨や暴風等に対し、警報・注意報や気象情報で警戒を呼びかけた。特に、その地域では過去に経験したことのないような大雨となった京都府、滋賀県、福井県では、特別警報を発表して厳重な警戒を呼びかけた。

この大雨と暴風、竜巻等により、土砂災害、浸水害、河川の氾濫等が発生し、岩手県、福島県、福井県、三重県、滋賀県、兵庫県であわせて死者 3 名、行方不明者 5 名となり、四国から北海道の広い範囲で損壊家屋 800 棟以上、浸水家屋 5,000 棟以上の住家被害が生じた。また、停電、電話の不通、鉄道の運休、航空機・フェリーの欠航等による交通障害が発生した(被害状況は、平成 25 年 9 月 18 日 10 時 30 分現在の内閣府の情報及び平成 25 年 9 月 18 日 6 時現在の国土交通省の情報による)。

平成 25 年 10 月 18 日  
気 象 庁

## 台風第 26 号による暴風・大雨

平成 25(2013)年 10 月 14 日～10 月 16 日

(これは速報であり、数値等は変わることがあります。)

### 1. 概要

10 月 11 日 03 時にマリアナ諸島付近で発生した台風第 26 号は、発達しながら日本の南海上を北上し、大型で強い勢力のまま、16 日明け方に暴風域を伴って関東地方沿岸に接近した。その後、台風は関東の東海上を北上し、16 日 15 時に三陸沖で温帯低気圧に変わった。

この台風および台風から変わった温帯低気圧により、15 日と 16 日を中心に、西日本から北日本の広い範囲で暴風、大雨となった。

特に東京都大島町では、台風がもたらす湿った空気の影響で、16 日未明から 1 時間 100 ミリを超える猛烈な雨が数時間降り続き、24 時間の降水量が 800 ミリを超える大雨となった。

10 月 14 日から 16 日までの総降水量は、東京都大島町大島で 824.0 ミリ、静岡県伊豆市天城山で 399.0 ミリとなるなど、関東地方や東海地方では 300 ミリを超えたほか、統計期間が 10 年以上の観測地点のうち、最大 1 時間降水量で 2 地点、最大 3 時間降水量で 9 地点、最大 24 時間降水量で 14 地点が統計開始以来の観測史上 1 位を更新した。風については、宮城県女川町江ノ島で 33.6m/s、千葉県銚子市銚子で 33.5m/s の最大風速を観測するなど、各地で暴風を観測した。

この暴風と大雨により、千葉県、東京都、神奈川県、静岡県で死者 25 名、行方不明者 30 名となり、中国地方から北海道の広い範囲で住家損壊、土砂災害、浸水害、河川の氾濫等が発生した。特に、東京都大島町では大規模な土砂災害が発生し、死者 22 名、行方不明 27 名となった。また、停電、電話の不通、水道被害、鉄道の運休、航空機・フェリーの欠航等による交通障害が発生した(被害状況は、平成 25 年 10 月 18 日 12 時現在の内閣府の情報による)。